

農業共済新聞 千葉版

掲載号	10 月 2 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	上席研究員 市東 豊弘
題名	赤花系イチゴ「桜香」「紅香」の鉢物栽培のポイント	
備考	【写真】5号鉢での鉢花生産	

【本文】

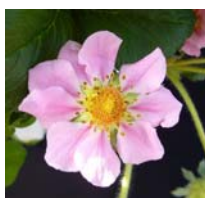
千葉県で育成した赤花系イチゴの「桜香」（おうか）、「紅香」（べにか）は、花色が美しく、鉢花として高い観賞性があります。また、果実糖度も生食用品種に劣らないことから、今後、家庭のガーデニング素材として期待されています。「桜香」は、花色が薄い桃色で、花弁の付け根に赤色の斑が入り、花は4～5cmと大きいのが特徴です。「紅香」は、花が3～4cmとやや小さいものの、鮮やかな赤色が人目を引きまします。現在、「テラスベリー」の愛称で販売が開始され、ガーデンセンター等に出回るようになってきました。

栽培上の注意点としては、炭そ病などに対する耐病性が低いため、雨よけ栽培が適しています。3月頃に親株をプランターなどに植え付け、5月下旬以降に発生するランナーを順次3号ポットに受け、9～10月までに育苗を完了します。なお、ランナーの発生は加温することで11月以降も見られますが、花芽の充実が不十分な場合が多く、未開花株の発生につながり、春のガーデン素材としての観賞期間が短くなります。

やや大株になるため、観賞価値の高い鉢花イチゴ生産する場合、5号ポット以上で栽培します。着色果実を1果以上、開花数も1花以上をつけた状態で、12月に出荷するためには、花芽分化を確認後、9月中旬頃に3号ポットから5号ポットへ鉢上げを行い、10月以降最低夜温を10℃に保ちます。また、3月に出荷するためには、11月上旬に鉢上げを行い、12月上旬より最低夜温を10℃で管理し、奇形果を出さないようミツバチの放飼を行うことが必須となります。



「桜香」



「紅香」

< 5号鉢での鉢花生産 >